

ケガをした野生の鳥を見つけたときは

普段の生活のなかで、ケガをした野鳥を見つれたり、ヒナ鳥が一羽でいる場面に出会ったときに、「どうしたらいいのかな?」「そのままにしておいていいのかな?」と迷うことがあると思います。そのような場合に、病気やケガをした野生の鳥とのかかわり方についてご紹介します。

●ケガをした鳥を見つけたときは…⑥

・鳥の種類を見る

カラスやドバトは、個体数が多いため保護施設へ持ち込めません。見つけても、自然のままにしてください。



カラス



ドバト

・動かない場合…

窓にぶつかり脳しんとうをおこして、ぐったりしていることがあります。意識がない場合は、回復するまでしばらく様子を見てみましょう。



脳しんとうをおこしたスズメ

カラスやドバト以外の野鳥が、血が流していたり、羽が折れているなどのケガをしている場合は、環境保全課までご相談ください。必要に応じて保護施設等へ持ち込みをします。

(高病原性鳥インフルエンザなどの感染症の流行時には、保護施設への受け入れを中止している場合もあります。)

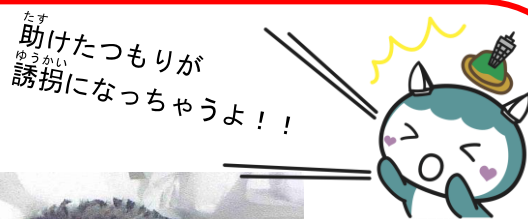
・ヒナかな??

ヒナが地面にいても、近くで親鳥が見ているので、近寄らずに見守ってください。

(人がそばにいと、親鳥は警戒してヒナに近づけません。また、親鳥と引き離してしまうと、ヒナが親鳥から野生での生き方を学ぶことができなくなってしまいます。)



巣立ち前のヒナ



ⓧ野生の鳥の捕獲・飼育は法律で原則禁止されています!